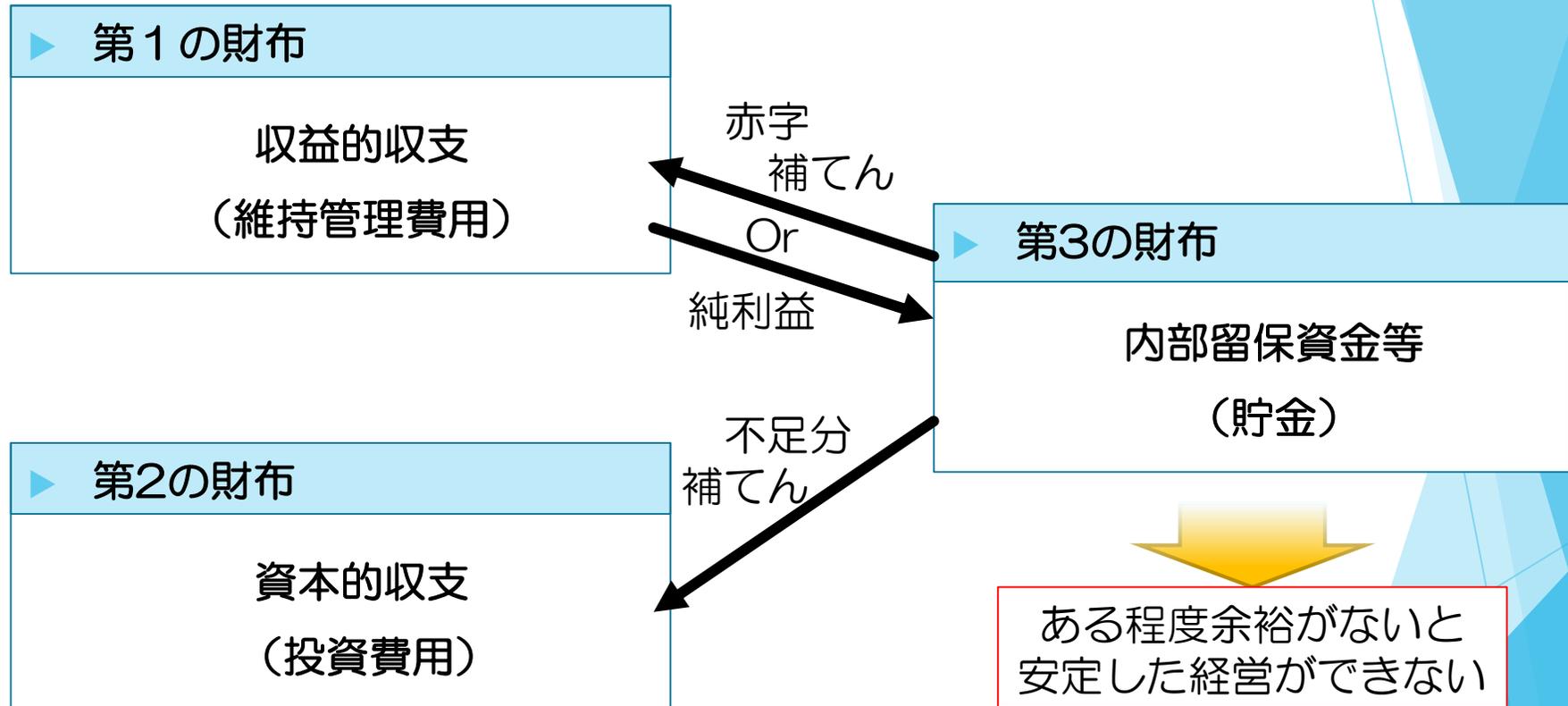


# 令和元年度水道事業等の決算について

経済建設委員会資料  
令和2年9月15日提出

# 公営企業会計予算の仕組み

※ 3つの財布について

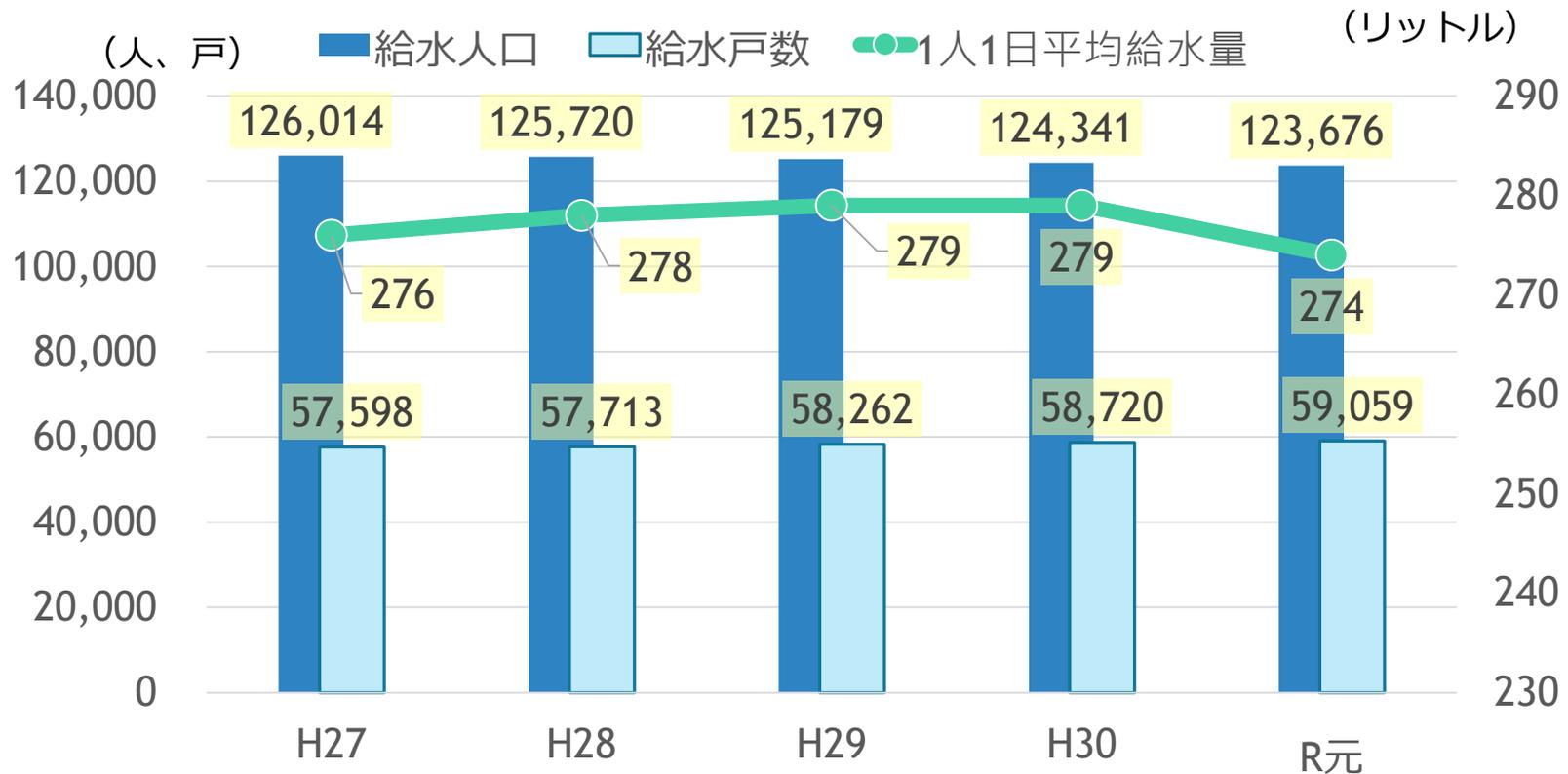


# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-1 水道事業の推移

○給水人口、給水戸数、1人1日平均給水量の推移

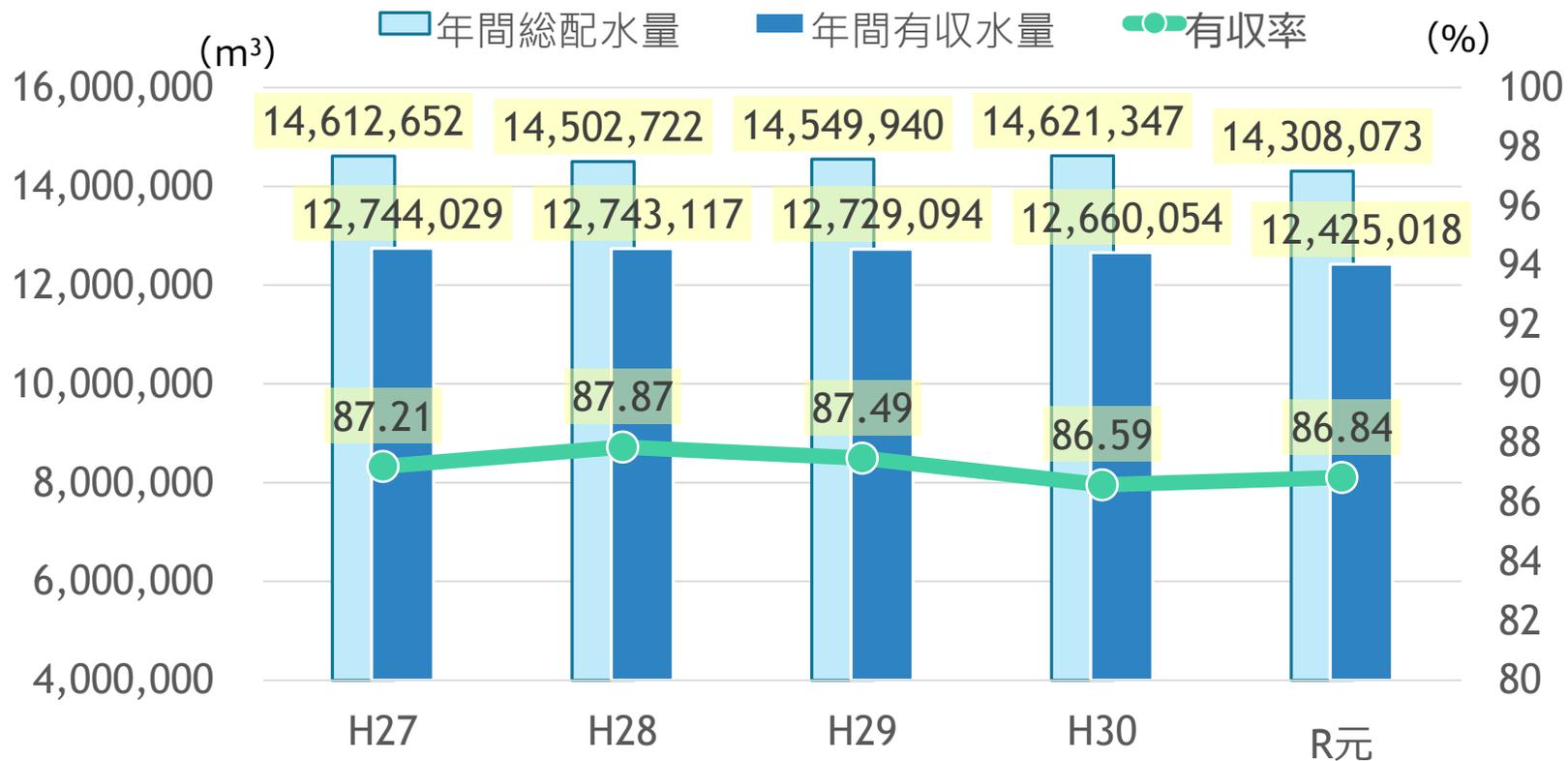


# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-1 水道事業の推移

○年間総配水量、年間有収水量、有収率の推移

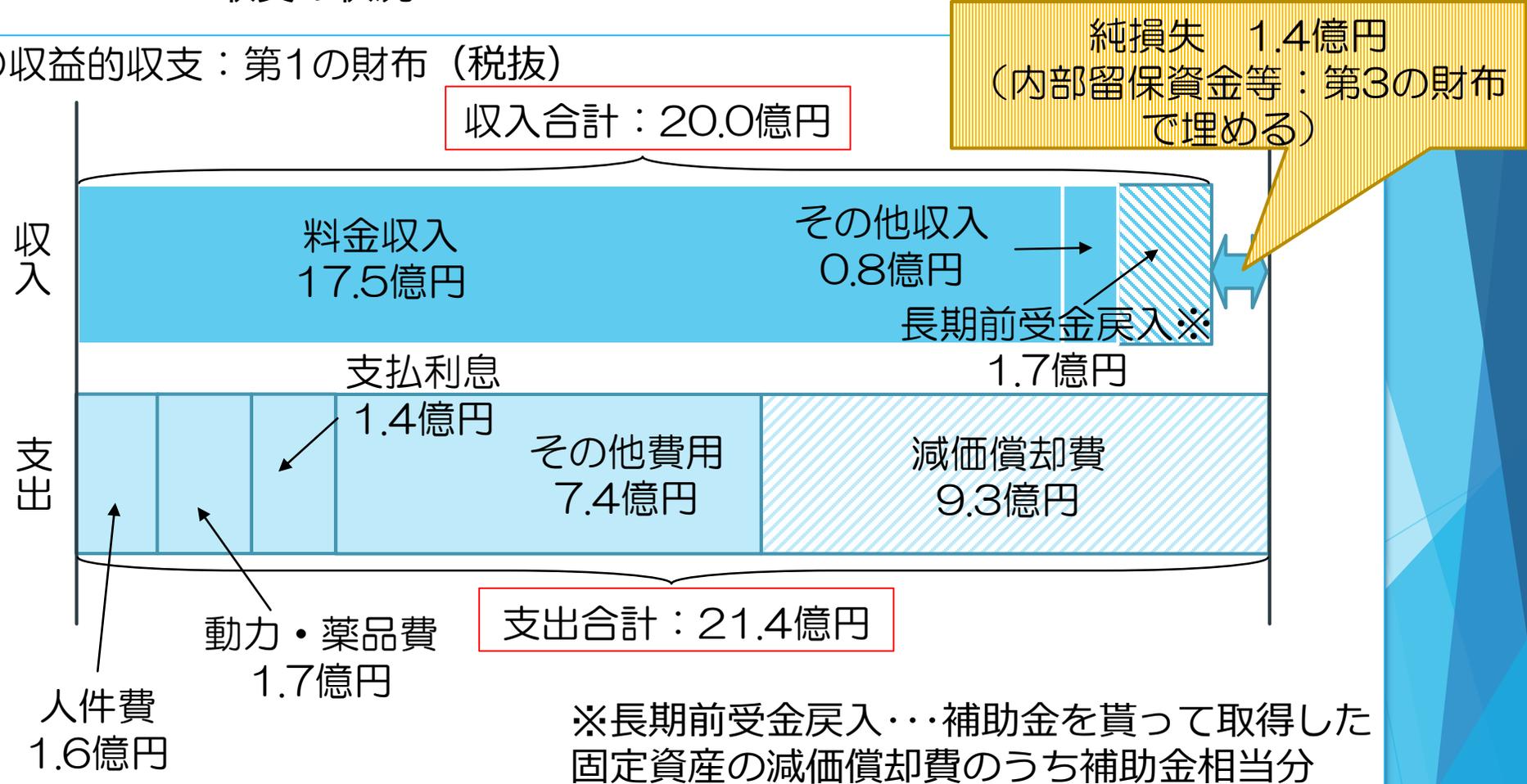


# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-2 収支の状況

○収益的収支：第1の財布（税抜）

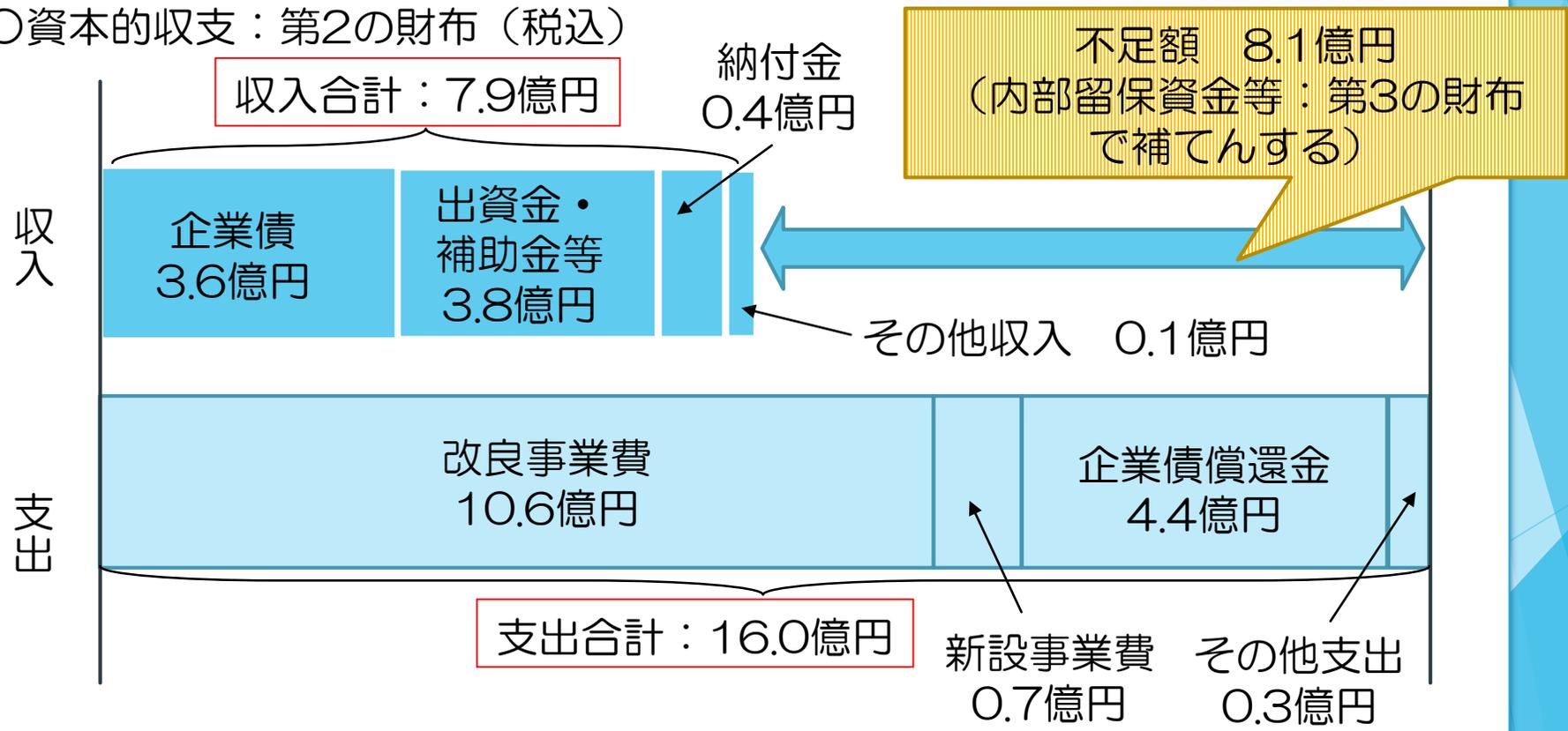


# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-2 収支の状況

○資本的収支：第2の財布（税込）



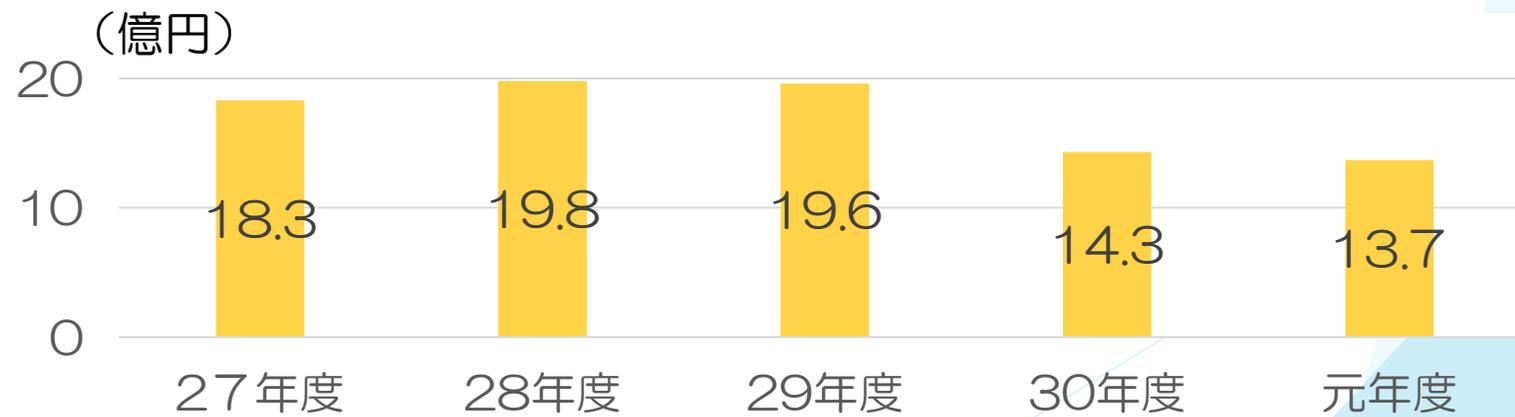
# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-3 水道事業会計の内部留保資金等（第3の財布）残高の内訳

年度	内容	金額	うち	
			収益的収支	資本的収支
30	前年度期末残高	14.3億円	5.2億円	9.1億円
元	増減(収益的収支)	△1.4億円	△1.4億円	
	補てん(資本的収支)	△8.1億円		△8.1億円
	当年度分	8.9億円		8.9億円
	当年度期末残高	13.7億円	3.8億円	9.9億円

### 1-1-4 水道事業会計の内部留保資金等残高の推移（5年間）



# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-5 水道事業会計の企業債残高の状況

年度	内容	金額
30	前年度期末残高	83.9億円
元	償還（返済）額	△4.4億円
	起債（借入）額	3.5億円
	当年度期末残高	83.0億円

### 1-1-6 水道事業会計の企業債残高の推移（5年間）



# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-7 令和元年度の主な事業

収益的収支	資本的収支
<ul style="list-style-type: none"><li>浄水場運転管理及び料金収納等業務委託（水道会計分） 3億2,599万円</li><li>給配水管緊急修繕委託 7,697万円</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>配水施設改良工事 （重要給水施設等配水管布設替工事等） 5億5,465万円</li><li>浄水場等施設改良工事 （太郎丸浄水場送水ポンプ井補修（その1）工事等） 3億7,879万円</li></ul>



# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-8 財務・経営の状況（経営分析）

	内容	対前年度 増減金額
収入	給水収益の減 ・ 給水人口の減	△3,560万円
支出	修繕費の増 ・ 浄水、配水機器修繕の増	974万円
	薬品費の増 ・ 使用量等の増	509万円
	材料費の増 ・ 部品購入による増	1,552万円
	料金システム更新委託料の増 ・ 消費税率変更等による増	290万円

# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-9 財務・経営の状況（指標）

項目	本市	類似団体(H30)	説明
経常収支比率 (%)	93.63	113.82	$(\text{経常収益} / \text{経常費用}) \times 100$ 経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標。 100%を上回っていれば健全な経営状態となる。
料金回収率 (%)	92.36	106.07	$\frac{\text{供給単価 (141.24円)}}{\text{給水原価 (152.93円)}} \times 100$ 水を作り各家庭に届けるまでの費用を、どの程度水道料金で賄えているかを示す指標。100%を上回っていれば必要な経費を水道料金で賄っているといえる。
企業債残高対 給水収益率 (%)	473.11	258.26	$(\text{企業債残高} / \text{給水収益}) \times 100$ 給水収益に対する企業債残高の規模を示す指標。 数字が小さい方が安全性が高い（借金の割合が少ない）といえる。

# 令和元年度決算の説明

## 1-1 水道事業会計

### 1-1-10 水道事業ビジョンの進捗管理

分野	施策目標	目標値	R1実績 (目標値 ※)	R1の取組
安全	水質管理の強化徹底	管末平均残留塩素濃度(mg/ℓ)	0.33 (0.10~0.30 →)	鯉田浄水場次亜注入設備改良工事等
強靱・持続	施設事故・管路事故対策の強化	管路更新率(%)	0.66 (0.72 ↑)	・重要給水施設管路の更新
	水道施設の計画的更新	有形固定資産減価償却率(%)	45.62 (44.89 ↓)	・修繕履歴の見える化 ⇒老朽管路更新時に反映
持続	安定経営の持続	料金回収率(%)	92.05 (100 ↑)	・業務委託での徴収率による報奨金制度を実施 ・浄水場運転管理及び料金収納等業務委託
		経常収支比率(%)	93.63 (100 ↑)	

※目標値における類団平均（類似団体平均）はH30年度実績。

また、目標値の横に表示している矢印は目標数値の目指すべき方向を指す。

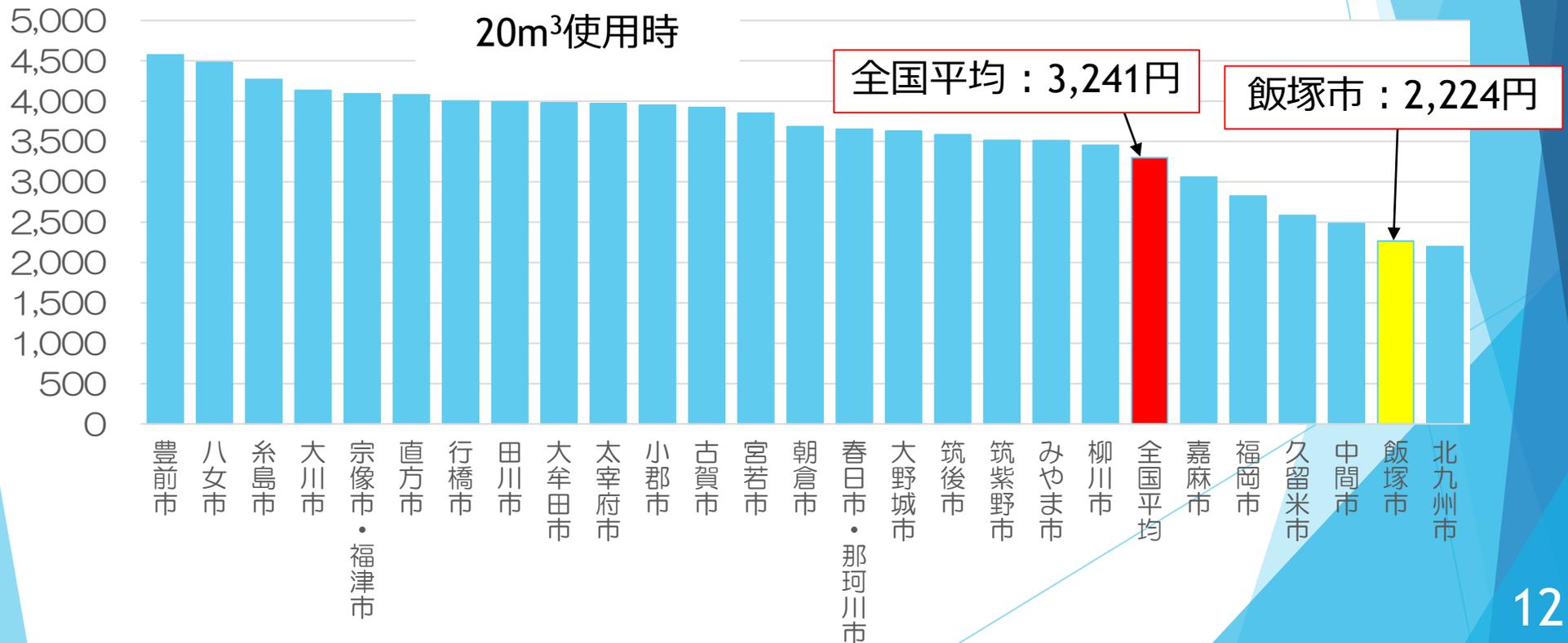
# 飯塚市の水道料金

## 水道料金の比較

【飯塚市の水道料金の状況】

○周辺・県内自治体との比較

家庭用（口径 13mm）1か月あたりの水道料金 （単位：円）

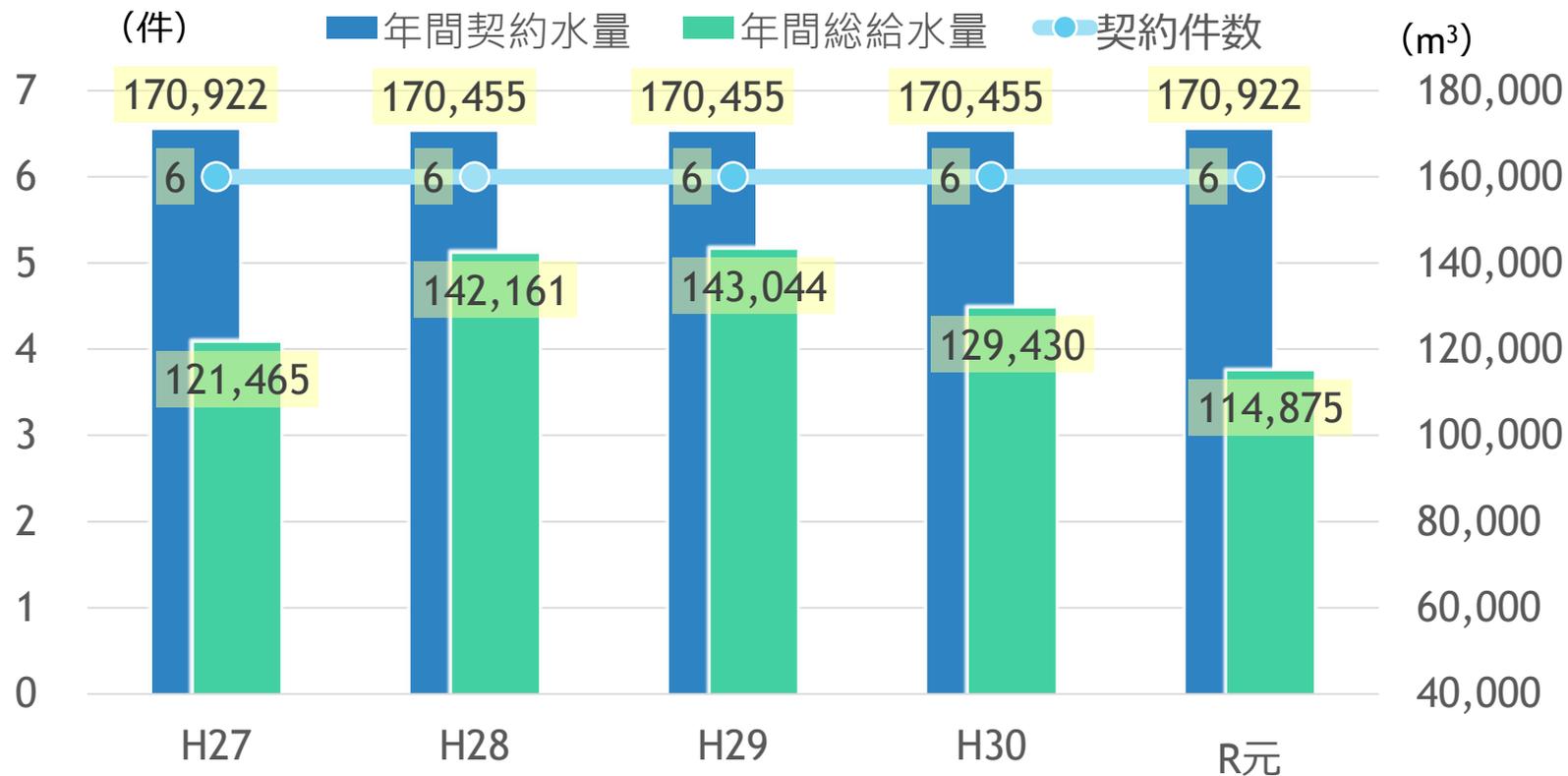


# 令和元年度決算の説明

## 1-2 工業用水道事業会計

### 1-2-1 工業用水道事業の推移

○契約件数、年間契約水量、年間総給水量の推移

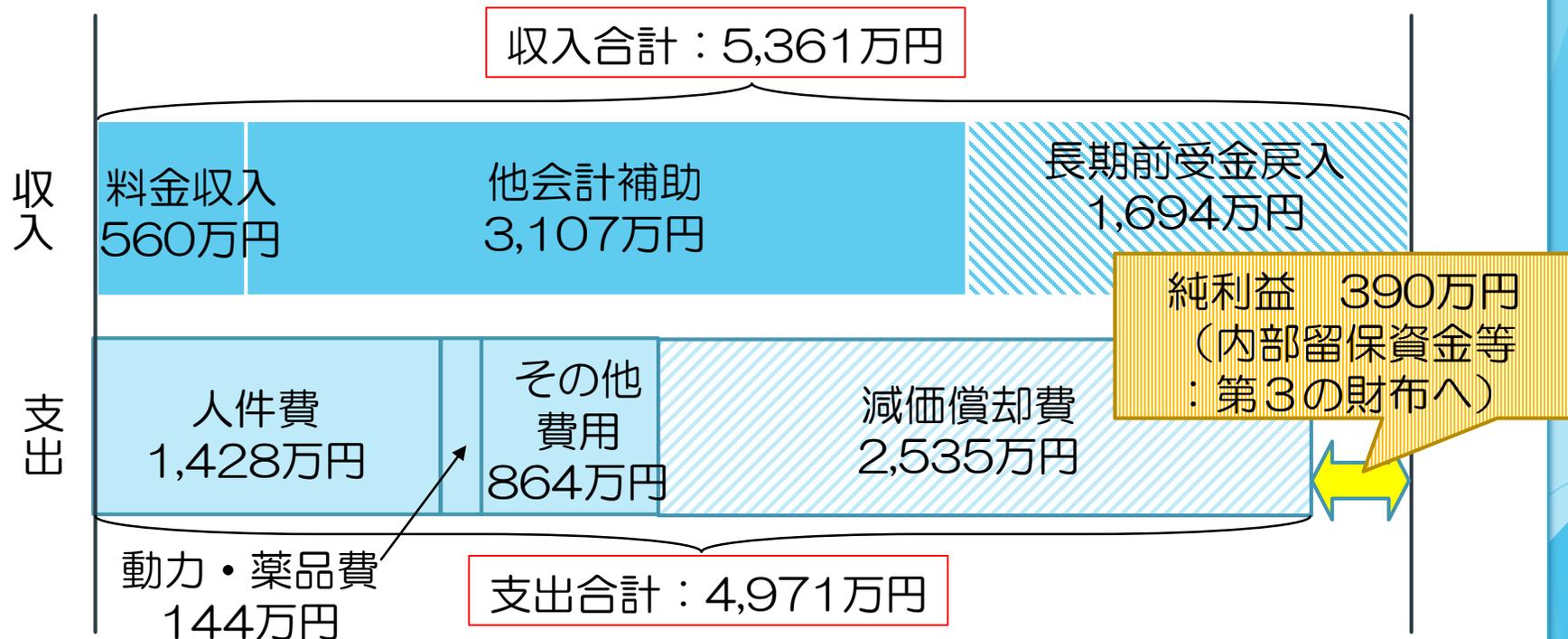


# 令和元年度決算の説明

## 1-2 工業用水道事業会計

### 1-2-2 収支の状況

○収益的収支：第1の財布（税抜）



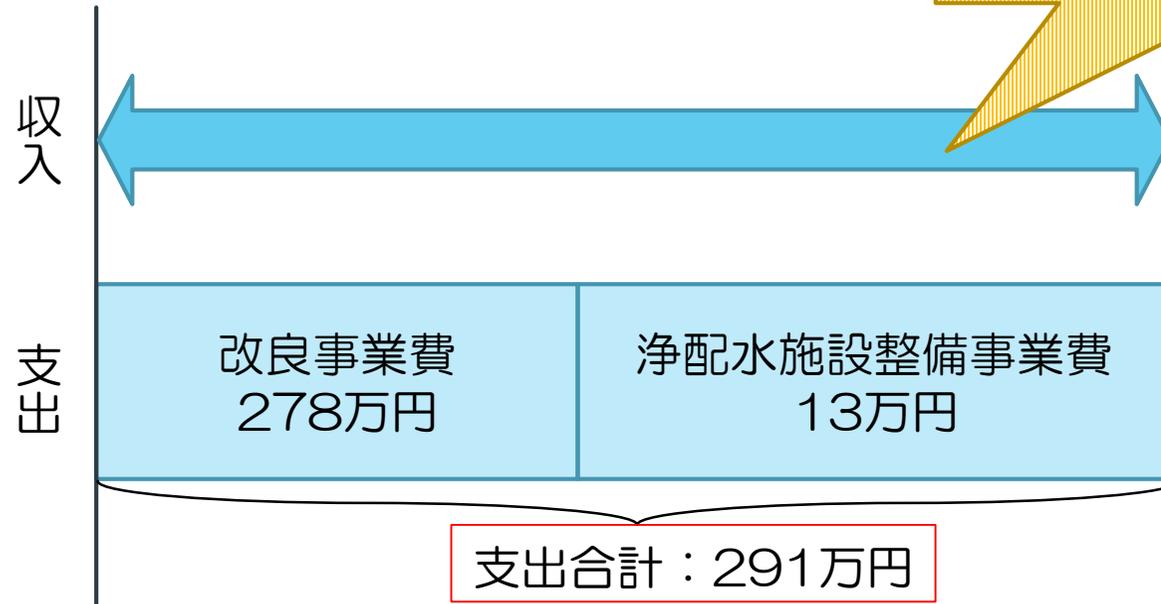
※工業用水道事業は、昭和45年に石炭産業の衰退に対する地域経済の活性化のために市の政策として開始した事業であるため、事業運営に不足する金額は一般会計（市長部局）が負担することとなっている。

# 令和元年度決算の説明

## 1-2 工業用水道事業会計

### 1-2-2 収支の状況

○資本的収支：第2の財布（税込）



不足額 291万円  
(内部留保資金等：第3の財布  
で補てんする)

# 令和元年度決算の説明

## 1-2 工業用水道事業会計

### 1-2-3 工業用水道事業会計の内部留保資金等（第3の財布）残高の内訳

年度	内容	金額	うち	
			収益的収支	資本的収支
30	前年度期末残高	1,985万円	373万円	1,612万円
元	増減(収益的収支)	390万円	390万円	
	補てん(資本的収支)	△291万円		△291万円
	当年度分	868万円	△373万円	1,241万円
	当年度期末残高	2,952万円	390万円	2,562万円

### 1-2-4 工業用水道事業会計の内部留保資金等残高の推移（5年間）



# 令和元年度決算の説明

## 1-2 工業用水道事業会計

### 1-2-5 令和元年度の主な事業

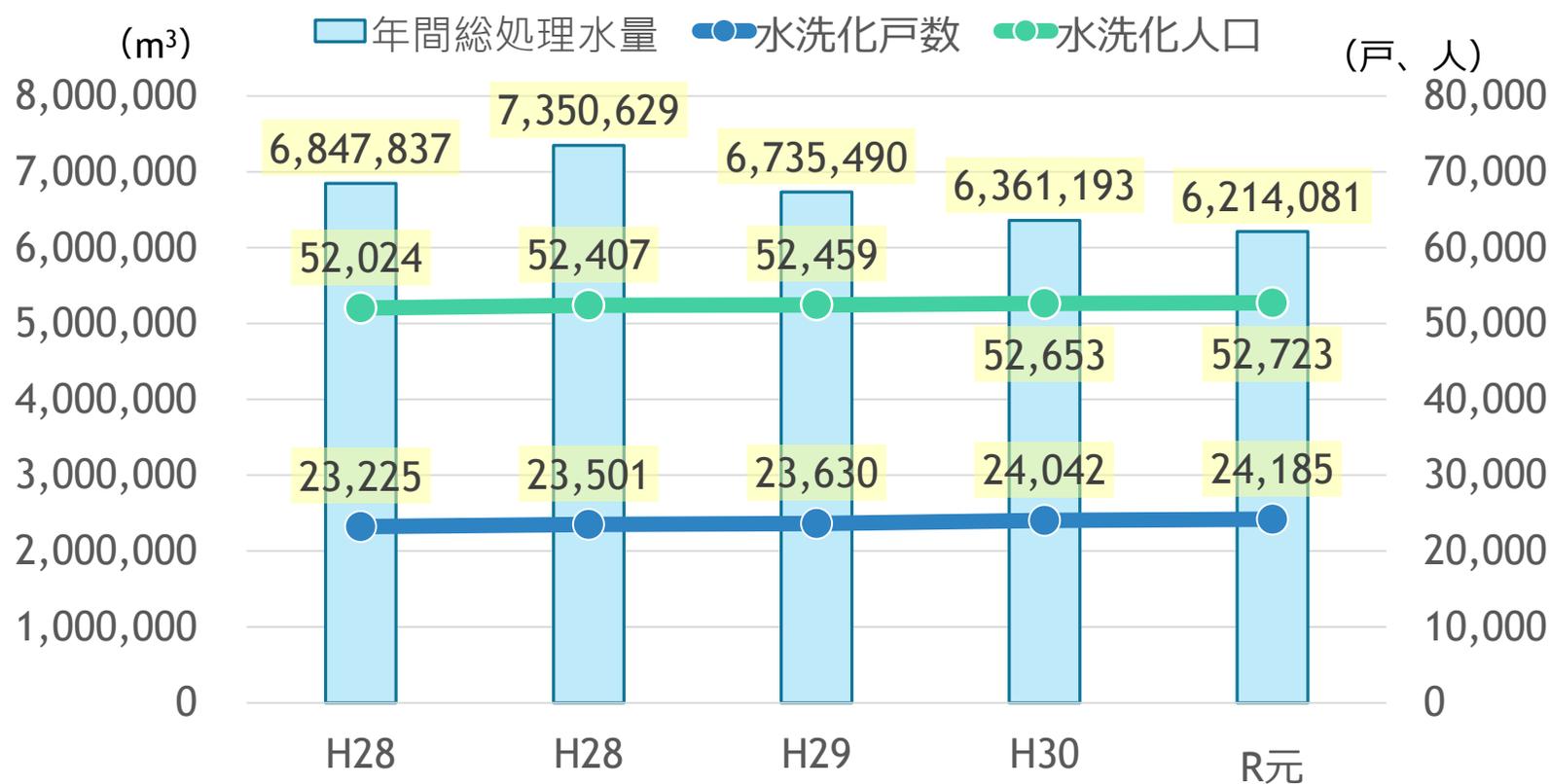
収益的収支	資本的収支
<ul style="list-style-type: none"><li>浄水場運転管理及び料金 収納等業務委託 (工水会計分)</li></ul> <p>65万円</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>浄水場等施設改良事業 (明星寺浄水場改築・更新方針検討業務委託)</li></ul> <p>278万円</p>

# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-1 下水道事業の推移

○年間総処理水量、水洗化戸数、水洗化人口の推移

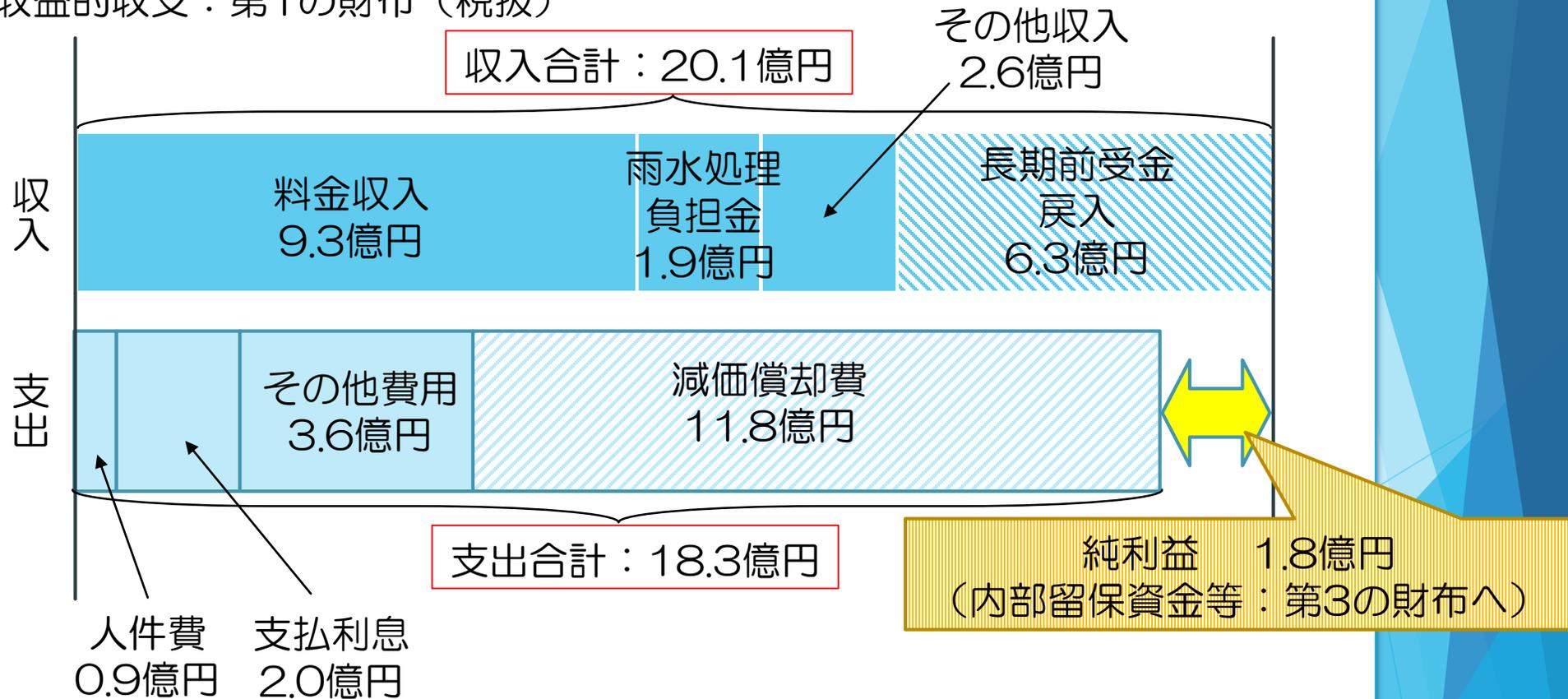


# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-2 収支の状況

○収益的収支：第1の財布（税抜）



# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-2 収支の状況

○資本的収支：第2の財布（税込）

収入合計：7.7億円

収入

企業債  
3.5億円

補助金等  
3.6億円

負担金等  
0.6億円

不足額 6.8億円  
(内部留保資金等：第3の財布  
で補てんする)

支出

施設整備費  
3.5億円

施設改良費  
3.0億円

企業債償還金  
6.2億円

支出合計：14.5億円

その他支出  
1.8億円

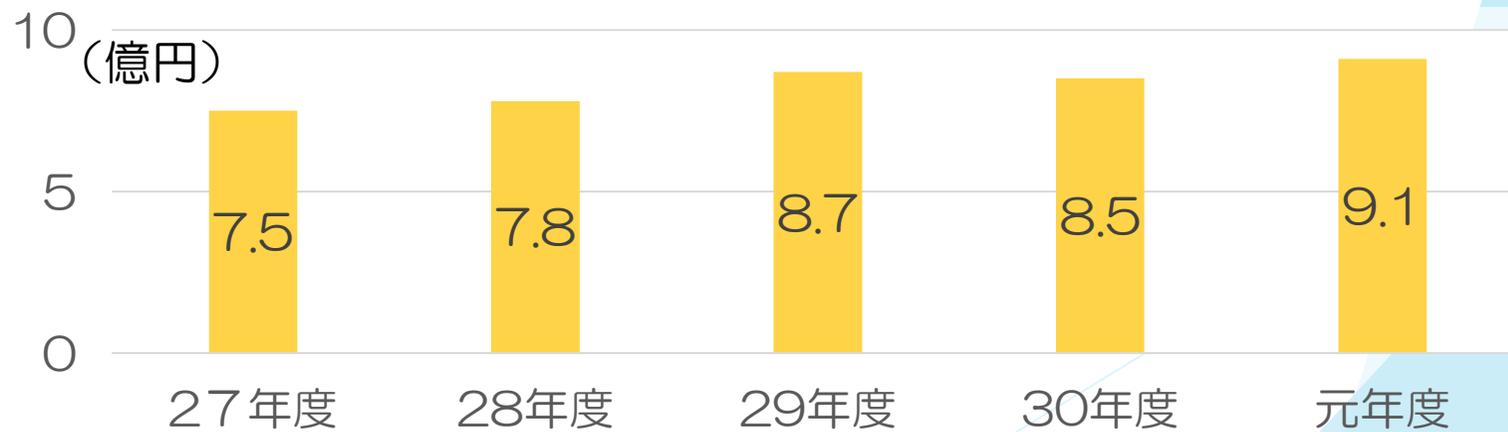
# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-3 下水道事業会計の内部留保資金等（第3の財布）残高の内訳

年度	内容	金額	うち	
			収益的収支	資本的収支
30	前年度期末残高	8.5億円	1.8億円	6.7億円
元	増減(収益的収支)	1.8億円	1.8億円	
	補てん(資本的収支)	△6.8億円		△6.8億円
	当年度分	5.6億円	△1.8億円	7.4億円
	当年度期末残高	9.1億円	1.8億円	7.3億円

### 1-3-4 下水道事業会計の内部留保資金等残高の推移（5年間）



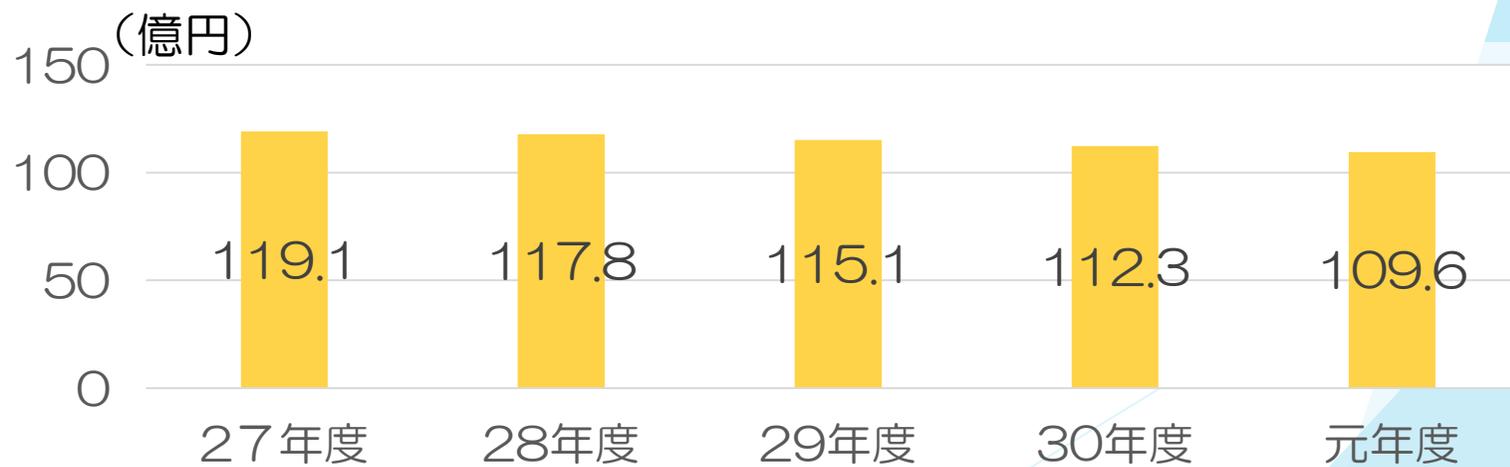
# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-5 下水道事業会計の企業債残高の状況

年度	内容	金額
30	前年度期末残高	112.3億円
元	償還（返済）額	△6.2億円
	起債（借入）額	3.5億円
	当年度期末残高	109.6億円

### 1-3-6 下水道事業会計の企業債残高の推移（5年間）



# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-7 令和元年度の主な事業

収益的収支	資本的収支
<ul style="list-style-type: none"><li>終末処理場運転管理業務委託 4,900万円</li><li>終末処理場機器修繕 2,527万円</li><li>使用料賦課徴収事務費負担金 1,972万円</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>施設整備事業 (目尾鯉田汚水幹線管渠布設 (13工区) 工事等) 2億9,527万円</li><li>ポンプ場等施設改良工事 (<u>殿浦ポンプ場機械設備改築工事等</u>) 1億7,429万円</li></ul>



# 令和元年度決算の説明

## 1-3 下水道事業会計

### 1-3-8 財務・経営の状況（指標）

項目	本市	類似団体(H30)	説明
経常収支比率 (%)	109.71	106.90	$(\text{経常収益} / \text{経常費用}) \times 100$ 経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標。 100%を上回っていれば健全な経営状態となる。
経費回収率 (%)	100.00	95.40	$(\text{下水道使用料} / \text{汚水処理費}) \times 100$ 汚水処理の費用を、どの程度下水道使用料で賄えているかを示す指標。 100%を上回っていれば必要な経費を下水道使用料で賄っているといえる。
企業債残高対 事業規模比率 (%)	1082.37	820.36	$\frac{(\text{企業債残高} - \text{一般会計負担額})}{(\text{営業収益} - \text{一般会計負担金等})} \times 100$ 料金収益に対する企業債残高の規模を示す指標。 数字が小さい方が安全性が高い（借金の割合が少ない）といえる。